令和 6(2024)年度

事業計画

学校法人 山野学苑

目 次

I 法人の概要

1. 基本情報
2. 建学の精神と教育理念
3. 設置する学校の概要
4. 役員の概要
5. 教職員の概要
6. 事業計画の概要

II 事業計画

1. 本学苑全体
2. 山野美容芸術短期大学
3. 山野美容専門学校
4. 山野日本語学校

令和 6 (2024) 年度 山野学苑事業計画

I 法人の概要

1. 基本情報

法人名称 学校法人 山野学苑
理事長 山野愛子ジェーン
法人の所在地 東京都渋谷区代々木 1-53-1

2. 建学の精神と教育理念

山野学苑は、初代山野愛子校長が提唱した「美道 5 大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）」を基に美容理論の追及、美容に関する知識・技能の教授・研究を通して社会や美容界で広く貢献のできるリーダーを育成するとともに、国際社会で活躍のできる人材の育成を目標とする。

3. 設置する学校の概要

山野美容芸術短期大学 美容総合学科
専攻科 芸術専攻
山野美容専門学校 美容専門課程
美容通信課程
山野日本語学校 大学進学準備教育 1 年コース
大学進学準備教育 1 年半コース

	学 校 名	入学定員	収容定員
山野美容芸術短期大学	美容総合学科	245	490
	専攻科 芸術専攻	40	80
山野美容専門学校	美容専門課程	600	1200
	美容通信課程	600	1800
山野日本語学校	大学進学準備教育 1 年コース	100	100
	大学進学準備教育 1 年半コース	55	110

4. 役員の概要

理 事 定数 5 名

	氏 名	常勤／非常勤	就任年月日
1	山野愛子ジェーン	常勤	令和 6 年 1 月 18 日
2	木村 康一	常勤	令和 6 年 1 月 18 日
3	植村 公一	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
4	清水 雅彦	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
5	藤本 欣伸	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日

監 事 定数 2 名

	氏 名	常勤／非常勤	就任年月日
1	黒石 匡昭	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
2	村山 利栄	非常勤	令和 6 年 2 月 6 日

評議員 定数 11 名

	氏 名	常勤／非常勤	就任年月日
1	山野愛子ジェーン	常勤	令和 6 年 1 月 18 日
2	茂木 勝彦	常勤	令和 6 年 1 月 18 日
3	河崎 峰子	常勤	令和 6 年 1 月 18 日
4	青山 正幸	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
5	小野田 光伸	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
6	五十嵐 メルビン	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
7	小口 光	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
8	雑賀 英敏	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
9	佐野 一郎	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
10	廣岡 敏行	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日
11	山北 宣久	非常勤	令和 6 年 1 月 18 日

5. 教職員の概要

(令和 6 年 4 月 1 日予定)

	本務人数	兼務人数	合計
山野美容芸術短期大学	38	104	142
山野美容専門学校	60	6	66
山野日本語学校	11	26	37
法人事務局	18	0	18

6. 事業計画の概要

令和 6 年度は、令和 2 年 4 月～7 年 3 月までの中期計画の最終年度に該当し、一新された理事会・評議員会において、これまでの計画及び実績を見直し、次の 5 年間の中期計画を策定する年度にします。

また、この度の学苑の再生を踏まえ、経営状況の改善に努め、経営基盤の安定化を図ってまいります。

【1. 本学苑全体】

- 1-1. 早急に改善すべき事項
- 1-2. 向上・充実のための課題
- 1-3. 人事制度再構築

【2. 山野美容芸術短期大学】

- 2-1. 建学の精神を具現化する学科改組の完成
- 2-2. 学習成果の可視化
- 2-3. キャリア支援の強化
- 2-4. 専攻科の再スタート
- 2-5. 危機管理体制の構築
- 2-6. 財務の再建
- 【3. 山野美容専門学校】
- 【4. 山野日本語学校】

Ⅱ 事業計画

1 本学苑全体

1.1 早急に改善すべき事項

本学苑は、令和5年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受け、令和6年3月8日付で不適格の評価を受けました。同協会より通知された、早急に改善を要すると判断された事項は、以下のとおりです。

- ① 学生に対する懲戒（退学、停学及び訓告の処分）の手続きに関する規程を定めていない。
- ② 理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしていない。
- ③ 理事会及び評議員会の議事録に会議で使用した資料が添付されていない。
- ④ 理事会及び評議員会に付議された事項について書面をもってあらかじめ意思表示した者の意思表示書が保存されていない会が複数回ある。
- ⑤ 実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録がある。
- ⑥ 学校法人資産の私的利用、上記の実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録による寄附行為変更認可申請を行うなど法人の内部統制の体制及びガバナンス機能に大きな問題がある。

上記問題についての対応策は以下のとおりです。

- ① 学生に対する懲戒規程は、令和6年1月の山野美容芸術短期大学の教授会の議を経て、1月25日付で学長が決裁。令和6年2月1日から施行しています。
- ② 理事及び評議員の定数変更を含む寄附行為変更が令和6年1月18日付け認可され、同日付で、旧理事・評議員の辞任、新理事・評議員の就任を決議しました。現在は、理事・評議員共に定数を満たしています。
- ③ 現在は、理事会・評議員会の議事録はすべての会議資料を添付し、袋綴じ、割印して保管しています。
- ④ 現在は、理事会及び評議員会における、すべての意思表示書、議事録を保管しています。
- ⑤⑥内部統制及びガバナンス機能の強化策として、コンプライアンス委員会を設

置しました。コンプライアンス委員会は、理事会の直轄組織とし、学苑全体のコンプライアンス上の様々な事項について、継続的に確認、検討、モニタリング及び助言を行っています。また、コンプライアンス委員は理事会及び評議員会にオブザーバーとして出席し、議事内容が正確に議事録に反映されているかの確認を行い、定期的に理事会・評議員会の議事録ファイルを確認し、開催実績と議事録の照合を行います。

1.2 向上・充実のための課題

同認証評価において、教育研究活動などのさらなる向上・充実に努めることを期待された課題は以下のとおりです。

- ① 財務状況について、余裕的資金はあるものの、学苑全体及び山野美容芸術短期大学で過去3年間の経常収支が支出超過となっている。
- ② 監事による監査報告書に、私立学校法の規定に従って理事の業務執行の状況についても記載することが必要である。

上記課題についての対応策は以下のとおりです。

- ① 学苑全体の財務状況の改善施策としては、既存施設の有効活用として、千駄ヶ谷にある山野日本語学校を代々木に移転し、MYタワーをはじめとする施設事業の収益改善を図ります。
- ② 監査報告書に業務監査を記載します。

1.3 人事制度再構築

中期計画の人事に関する計画に基づき、給与体系及び人事評価制度の最適化に向け、新制度の検討を進めます。

2 山野美容芸術短期大学

2.1 建学の精神を具現化する学科改組の完成

令和3年度から美容総合学科の旧3専攻制（美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻）を改組し、美容総合学科一つとしました。令和4年度にこの改組が完成し、令和5年度は2巡目の卒業生を送り出しました。

今後は、学生のニーズに応えるような教育内容の充実を図り、学生の満足度向上及び退学率の減少を図っていきます。具体的な方針は以下のとおりです。

- 学習成果の可視化による内部質保証の改善
- キャリア支援の強化

2.2 学習成果の可視化

令和3年度からディプロマポリシー評価表（DPルーブリック）を導入し、学生個人々がDPのどの段階まで到達しているか判定できるようにしました。こ

の評価票は学生・教員間で行動を確認し評価しますが、主観的な側面もあるため、この評価票と併せ、成績評価、従前より導入している PROG 等の客観的な評価指標と照らし合わせを行いつつ、学習成果の達成度を可視化しています。令和 6 年度はこれら評価の活用を引き続き徹底し、卒業生全員が DP1 から DP6 の各項目で Level4（学位授与レベル）の水準に達するよう学生指導を強化します。

教員の教育の実態について、学生への授業アンケートで調査します。IR 室による学習成果の把握と可視化により、学修者本位の教育を実現します。また自己点検評価改善委員会は、IR 室の調査結果を踏まえて教育内容・方法の検証・改善を進めます。

この他に、入試科目の見直しの他、複線的・多面的な学び、データサイエンス教育などの総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた検討を進めてまいります。本学の掲げる美道は正に総合知の礎であり、単に知識を学ぶだけでなくその知識をどの様に活用するか「考える」力を身につける教育の実践を目指します。

2.3 キャリア支援の強化

保護者等の大学への期待は、十分な教育内容は当然として、出口にあたる就職への支援も大きいと考えています。本学では、学生自身が将来進むべき道を探る機会を用意し、卒業後も継続してキャリアアップできる力を育成します。

特に学生の自己分析支援として、ジェネリックスキルの成長を支援する PROG（リテラシーとコンピテンシーの測定テスト）を在学中の 2 年間に 3 回実施し、学生自身に自分の強み・弱みと在学中の成長を実感してもらいます。実施時期は入学直後の 4 月、1 年生後期の 12 月、2 年生の 12 月です。

こうした学生個人の力を向上させる支援のほか、各学生が希望する就職、編入や留学を実現するために、キャリア支援センターにて様々な支援活動を行います。具体的な活動として、個別のキャリアカウンセリングの他、インターンシップ、業界研究会、有力企業による学内説明会などによる就職支援です。

2.4 専攻科の再スタート

令和 6 年度は、専攻科芸術専攻がリニューアルしスタートします。（独立行政法人学位授与機構の認可）①学科で学んだ基礎を深め、②学びをより深めたい、③「美」に関する知識や技能を社会のために役立てたい、④学士取得を目指したい、と考える学生や卒業生を対象にしています。

当専攻では、「美」に関する知識や技能をプロデュースの視点でとらえ、新しいアートビジネスを生み出せる人材の育成を目指しています。また、当専攻は学内の既存のリソース（施設設備、人的資源）の有効活用による教育活動であり、財務の健全化にも資すると見込んでいます。当専攻の概要は以下の通りです。

【芸術専攻概要】

芸術専攻：入学定員 40 名、修業年限 2 年

短期大学士が 2 年間学びを継続することにより、学士（芸術学）を取得する。

※修業年限が2年以上で、かつ、課程修了に必要な総授業時数が1,700時間以上の専門学校を修了した方も入学できます。

■美容芸術表現領域の科目

「写真表現演習」「空間環境デザイン」「ヘアデザイン」など

■美容芸術理論領域の科目

「マテリアル研究」「ファッション文化研究」「色彩表現研究」など

■社会実装領域の科目

「アートマネジメント」「美容芸術研究」「ビューティープロモーション」など
保護者等の大学への期待は、十分な教育内容は当然として、出口にあたる就職への支援も大きいと考えています。本学では、学生自身が将来進むべき道を探る機会を用意し、卒業後も継続してキャリアアップできる力を育成します。

2.5 危機管理体制の構築

本学は、令和5年8月施行の山野学苑危機管理規程に従いつつ、本学独自の危機管理対応としてコロナ禍で策定した「事業継続計画（BCP）」を見直し、令和6年4月からの施行を目指しています。また、大規模地震等、緊急事態発生時に備えた避難訓練を定期的実施し、学生を含め、防災・危機管理意識の徹底を図ります。

2.6 財務の再建

先述の経常収支の支出超過の最大の要因は、学生数の減少に伴う学生生徒等納付金の減少であると考えています。

学生数については、ここ数年のリブランディング活動により、収容定員490名（入学定員245名）に対し、令和3年度在籍者（312人）、4年度在籍者（350人）、5年度在籍者（372人）と徐々に学生数が回復していますが、引き続き、教職員が一丸となって取組み、令和10年度以降の定員充足率100%を目指して参ります。

また、学納金については、物価、燃料費等の高騰などから、施設維持管理費用が増加しています。このため、学納金のうち施設設備費について、令和7年度入学者より年額30,000円増額することと改訂しました。

（単位：千円）

事業活動収支	令和6年度
収入合計	580,870
支出の部合計	766,601
当年度収入超過	△185,731

3 山野美容専門学校

（1）方針

- ①教職員が今まで以上にワンチームとなり一体感のある組織となる
- ②学生募集を定員確保して創立 100 周年に向け前進する

(2) 重点ポイント

- ①専門課程 今年度入学者より新カリキュラムスタート
- ②通信課程 昨年度より開講した土曜コース継続とカリキュラム見直し

(3) 活動目標

①教育体制の整備

- ・ 教員は内外研修の参加や資格取得を支援して教育の質を向上
- ・ 専門課程は進級時の担任変更の他、学生のクラス替えを実施して社会性を助長
- ・ 通信課程は受験講習を必須出席時間にし、夜間スクーリングは日程を分散

②教育内容の見直し

- ・ 新カリキュラムの実技授業を外部美容師に担当して頂き現場とのギャップを埋める
- ・ キャリアデザインの授業を通して精神美を学び社会人基礎力を身に付けて卒業する
- ・ 通信生の国試対策授業において実技模擬試験を専門課と合同で実施して本番力を養う

③教育環境の整備

- ・ 座学の授業効率と学習効果を上げる為、全学科教室にプロジェクター設置を検討

④学生サポート体制

- ・ 生活支援
 - 引き続きダッシュボードを活用して保護者との連携を密にする
- ・ 教育支援
 - 実学共にレベル別クラス実施、受験対象者は全員合格できるよう指導
- ・ 就職支援
 - サロンとのミスマッチを防ぐ指導、就職希望者の就職率 100%の継続

⑤休退学の改善

- ・ 入学前
 - 入試面接において卒業まで導けるか見極められるように審査基準の統一化
- ・ 在学中
 - 保護者との連携、不安な学生と早期に面談を実施し休退学防止に努める

⑥学生募集

新規受験対象者の来校者数を 1400 名（現状 1300 名）に増やし、さらに、歩留りを 7%向上（現状 36%⇒43%）させ、入学者数 600 名を目標とする

- オープンキャンパス（OC）・個別説明会

令和6年度から進化する新たなカリキュラムの教育内容を周知するとともに、学生が主役となる運営体制を構築し、学生の成長を伝え、高校生との対話の機会を充実させる

- 〈 オープニング会場 〉

卒業生技術ショーは卒業後 3～5 年目で、最近の山野イベント等を経験した OC 経験者とし、高校生が憧れて入学したくなる仕組みとする。同様に在校生の学生技術ショーは教育指導を徹底し、他の美容学校より技術レベルが高いと感じさせる

- 〈 体験授業 〉

選択制カリキュラムと同様に参加者が複数の授業を選べる形式に変更する
20分×2回で2つの授業を選択し、本校入学後の授業をイメージさせる
また、体験授業の中で在校生と参加者がコミュニケーションをとれる機会を創出し、在校生とのつながりを強化して歩留まりを向上させる

- 〈 キャンパスツアー 〉

OC 学生幹部を中心にツアー学生数を増員するとともに、キャンパスツアー勉強会を開催し、キャンパスツアーのクオリティを上げて、他校には無い本校の魅力を伝える

- 〈 個別相談 〉

受験対象者のクロージングを最優先とし、保護者同伴の方には教職員、高校生には在校生が積極的にアプローチして、進路状況のヒアリング、不安の解消に努め、安心感を与える
また、リピート率を高めるために、個別説明会の案内や次回予約を推進する

- ガイダンス、高校訪問

高校訪問や進学ガイダンスにおいては、一都三県を重要エリアとし、継続的に訪問する
また、ターゲット校への進学ガイダンス参入のため、進学者との関係を強化する

- SNS

本校への認知度や興味関心を促進し OC 参加学生を増やすために SNS を最大限に活用する

また、イベント参加者のフォロー、再来校の促進、出願までの伴走など、これまで以上にSNSを広報活動に活用していく

・学校見学

見学者の希望に合わせて見学内容をカスタマイズできる学校見学は歩留まりが高いため、オープンキャンパス参加者のリピーターの受け皿としても機能させる

各教室の展示、年間のイベント写真など、入学後の学びをイメージさせる学内展示を改善し、歩留まり向上させる

⑦財務基盤の強化 (単位:千円)

事業活動収支	令和6年度
収入合計	1,473,846
支出の部合計	1,591,379
当年度収入超過	△117,532

学納金については、物価、燃料費等の高騰などから、費用が増加しています。このため、学納金の値上げについて検討を進めます

4 山野日本語学校

(1) 目標

日本語教育機関としての中心となる競争力＝「日本語教育能力」とし、日本語教育能力の更なる向上を目標とする。

(2) 主な事業計画

①教育事業

- ・日本留学試験対策の強化
- ・日本語能力試験対策の強化

②管理業務

- ・学生募集の安定化（募集地域の多様化）
- ・校舎移転計画の遂行
- ・日本語教育機関認定制度の情報収集と申請計画の策定

③人事

- ・事務局常勤職員 1 名増員
- ・日本語常勤講師 1 名増員（法定人数を補充）

④施設・設備

- 外壁修理（雨漏り対策）
- 内装修理
- 高圧電気設備部品交換（耐用年数を越えた部品）
- エレベーター部品交換（耐用年数を越えた部品）

⑤事業活動収支 (単位：千円)

事業活動収支	令和6年度
収入合計	270,835
支出の部合計	212,412
当年度収入超過額	58,422